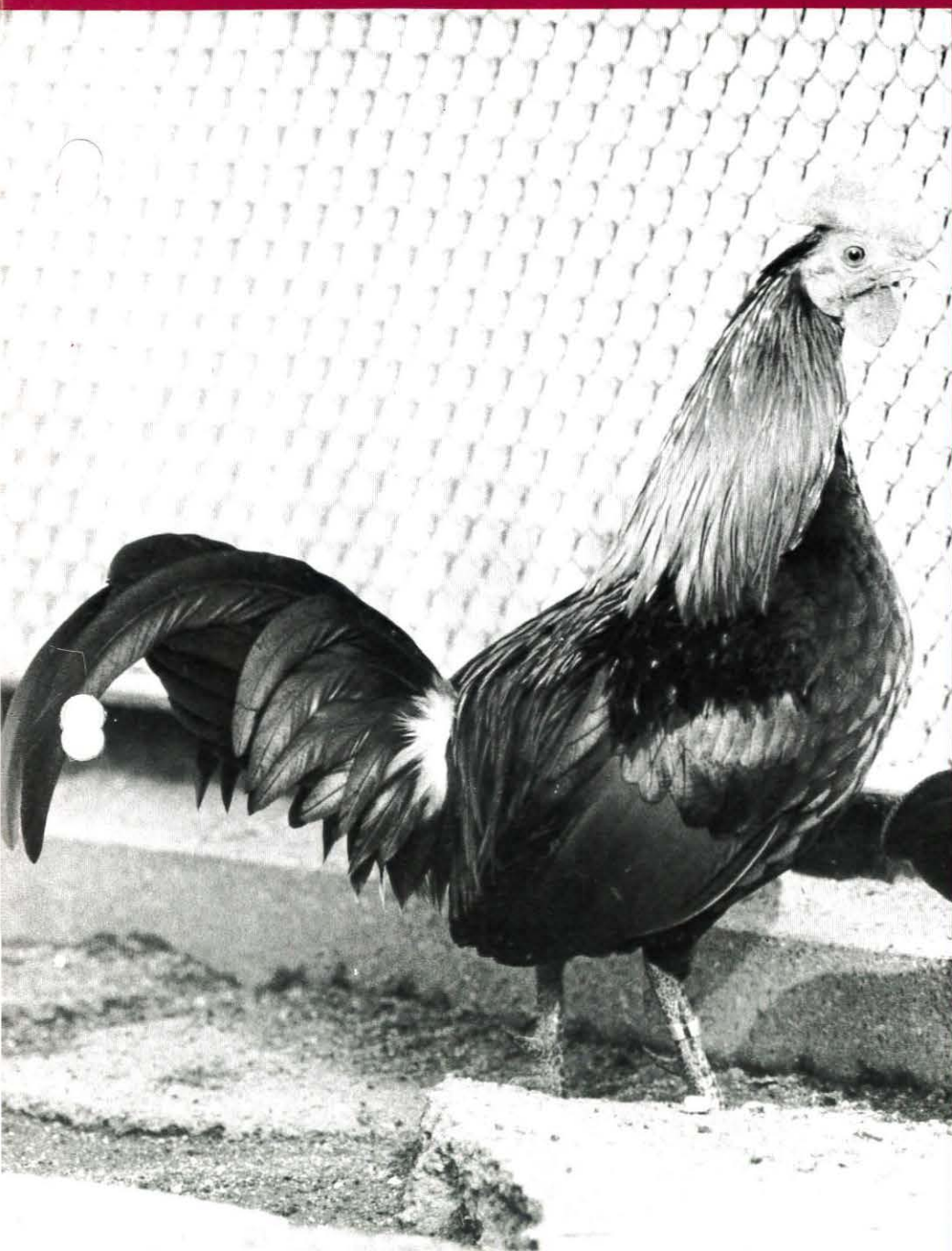


# なきごえ



1981

12

大阪市  
天王寺動物園協会

富原 錫宗



どうぶつというより生きている物と接した時、私は不思議と驚きを感じさせられてしまいます。どうしてこんなに素晴らしいことや愛情深い行動ができるのだろうかと思うと畏敬の念を感じとられずにはおられないのが偽らざる心境です。私とどうぶつ、もし私が生まれてすぐ掛り合いを持ったとしてもたかが33年です。でも私達が目にして生きているものは、自分達よりも古くこの世をじょうずに生き続けているのですから、当然我々よりも素晴らしい知能を持っていても不思議ではないと思いはじめました。そして今はひとつでも多くどうぶつからいろんなことを学ぼうと思ひ、許す限り生きとし生ける物と接する日々を一日でも多く持とうと努力しております。又一人でも多くの人に生きてゆくどうぶつの素晴らしさを知って頂きたいと思っています。季節はずれの話で恐縮ですが夏の風物詩のひとつになっているデパートのカブトムシ、ザリガニ売り。売買に対しては私はべつだん悪いとは思いませんが、よくその時期になると新聞、テレビに『あんな生きものまで商品にして』とか悪評高く書かれていることがありますが、私はそのような昆虫類や水生生物類が商品になり子供達に買い求められてもしかたがないのが現状だと思うのです。それよりも買い求め育てる側に

おねがいたいのです。金額ではたかが100えん200えんの命の値段かもしれませんが、決してそんな安っぽい物では無いと言うことを育てて行く過程でおそわって欲しいのです。育て方ひとつで、そのカブトムシ、ザリガニを手にした子供達は生きてゆくものでない限りおそわることのできないことを知るでしょう。又それを知ってもらわないとそのカブトムシやザリガニはイヌ死になってしまいます。育て方ひとつで……衝動買いで求めたにせよその小さな命、生きてゆく物の生きざまを真剣に考え話してもいいのではないのでしょうか。小さな命を育ててゆく興味を大きく正しく育てて欲しいと思います。来年の干支にあたるイヌ、イヌにとってはどんな年になるのでしょうか？暮から新年にかけてこれでもかと言わんばかりに可愛いイヌ、賢いイヌがテレビ、新聞に登場することでしょう。そしてそれを見「あんなに可愛いイヌだったら飼いましょ」と買いに走られる人も多いでしょう。畜産商の裏話になります、来年前半3ヶ月で一年分の仔犬を売れる予想を立てています。当然値も上がります。早や今その波があらわれております。イヌを飼育育ててゆくことは大変に素晴らしいことですが、育ててゆく内に自分が思ったよりも手がかかったり大きくなったりして手におえなくなるイヌ達もきつと何十頭何百頭とでるでしょう。そうなったイヌ達はどのようなのでしょうか？……きれいごとだけでは絶対に生きものは育てられないと思います。ともあれ生きものは本当に素晴らしい仲間です。友達です。つきあってみないと絶対にわからない素晴らしさを是非一度体験して下さい。あの育ててゆくしんどさと喜びを味わって下さい。

『自然から学ぶおもいやり』これで行きましょう  
追伸

テーマである『動物と私』からはずれ『おねがいは節』になってしまい申し訳ございませんでした。

(いきもの110ばん・飼育指導員)

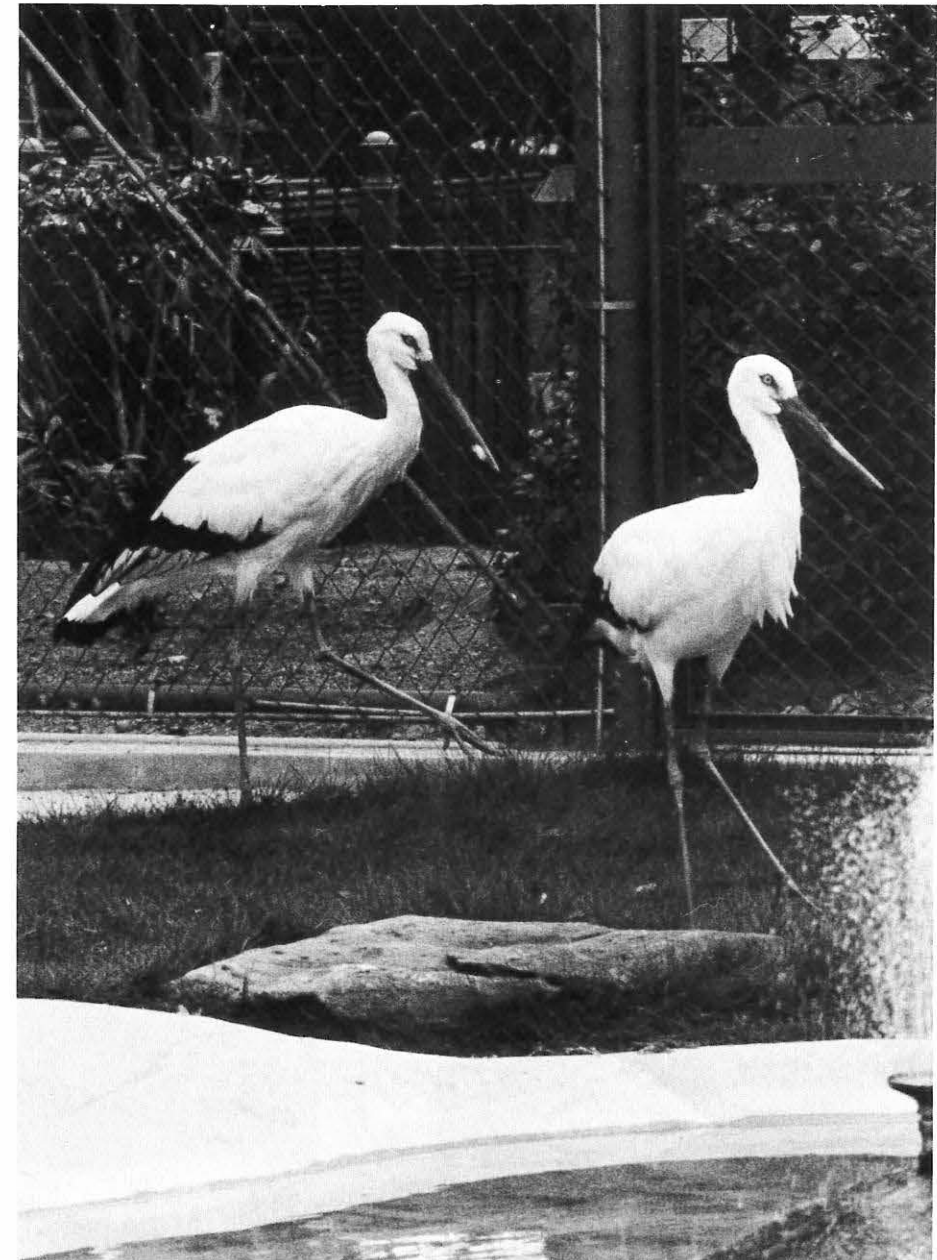
なきごえ12月号もくじ

動物と私 .....	2
.....	3
動物園グラフ・動物園日記 .....	4・5
この一年をふり返って .....	6・7・8・9
キーバズ・アイ .....	10
動物園ニュース .....	11

表紙の写真説明

“セキショクヤケイ”  
西暦最終月の表紙を飾るのはセキショクヤケイです。インドから東南アジアにかけて生息するこの鳥は現在のニワトリの先祖のひとつとされています。

(撮影：長瀬 健二郎)



“おにあいのカップル誕生！”

先月号のニュースでもお知らせしたように、オス1羽だけになってしまったコウノトリに、10月14日メス1羽がお嫁入りしました。これは繁殖の目的のために神戸市立王子動物園の御好意でお借りしたもので、2羽の仲は非常によく、来春の繁殖が大いに期待できそうです。(手前がメス)

(撮影：榊原 安昭)

# 動物園グラフ

今年もたくさんの動物が生まれました。自然繁殖で親が育てたもの、人工哺育しなければならなかったものと様々ですが、今年生れの主な動物たちを紹介しましょう。

(左ページは自然繁殖、右ページは人工繁殖)  
[撮影：礒原安昭]



カリフォルニアアシカ (6月8日、21日、23日)  
今年も3頭のあかちゃんが生まれました。残念なことに一番最初に生まれた子供は成長が悪く、人工哺育に切り変えましたが6月26日死亡しました。残る2頭はすくすく育っています。



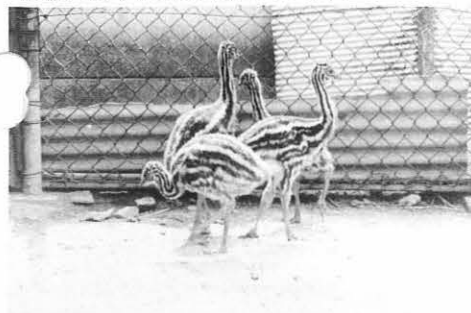
コブハクチョウ (5月22日)  
昨年入園した南園、日本庭園のコブハクチョウ夫婦に3羽のヒナが生まれました。今ではもう親と変わらない大きさに育っています。



ダルマインコ (6月28日)  
キジ舎でニジギジといっしょに飼われているダルマインコが地上に巣を作り、無事ヒナを育てました。これは当園では初めてのことでした。



ブラックバック (1月24日)  
生まれた日は冷え込みが厳しかったため人工哺育で育てました。じょうぶに育つように「イク」と名付けられました。今年「イク」以外にも、2月8日、8月25日、29日にもブラックバックが生まれています。



エミュー (2月15日～4月4日)  
昨年12月20日から産卵が始まり、13個産卵(8羽孵化しました)。人工育すうもうまくゆき、6羽のヒナが無事育ちました。



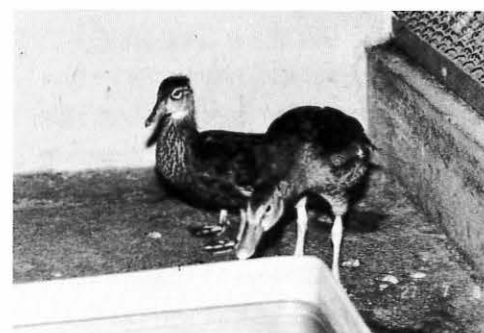
カムリウズラ (5月18日～7月18日)  
昨年10月に入園した二番が、4月20日から産卵を開始し、9羽のヒナが孵化し、うち6羽が育成しました。生まれた時から頭に冠のあるかわいい鳥です。



フタコブラクダ (3月5日)  
生まれた日は前日が雨であったため、全身泥まみれで仮死状態で発見されました。無事に育つか心配されましたが、元気に大きくなりました。



トラ (1月20日)  
3頭の赤ちゃんが生まれたのですが、2月3日に1頭が死亡したので、残る2頭を人工哺育に切りかえ、無事育てることができました。



アカハシリウキュウガモ (6月21日～7月7日) [手前]  
アメリカオン (6月18日) [後]  
アカハシリウキュウガモは昨年繁殖賞を受賞しましたが、今年も人工孵化した6羽が全部育ちました。アメリカオンは初めて1羽が孵化し、アカハシリウキュウガモといっしょに育てられました。



タンチョウ (5月26日、27日)  
今年で6年連続繁殖に成功しました。惜しくも5月30日に1羽が死亡しましたが、残る1羽は元気に育ちました。

## 10・11月の動物園日記

- 10/21. アグーチが子供を2頭出産しました。定例飼育研究会が行なわれました。
- 10/22. オオカミなどが入っている中獣舎の消毒を実施しました。
- 10/23. チンパンジーの雌サクラが口内炎とおしりにはれ物が出きたので治療を始めました。トラグミとアオバツクを各々1羽ずつ保護しました。衰弱が両鳥ともに著しかったので、すぐに治療と保温を行ないました。

- 10/24. 足を骨折したゴイサギを保護しました。カナダヤマアラシの雄が慢性の化膿性肺炎で死亡しました。
- 10/25. ヤマシギとコシアカツバメを1羽ずつ保護しました。
- 10/26. オオタカを猛禽舎のサシバと同居、展示しました。
- 10/28. クロオオカミの雄(平平)と雌(義義)が上海動物園より到着しました。その後、少し遅れて、上海動物園視察班が来園され、クロオオカミと対面されました。

- 10/29. 上海動物園視察班が来園され、園内見学および当園職員との技術交流会を開きました。
- 10/31. 大阪市と上海市との交換動物歓迎会が開催されました。
- 11/1. テナガザル舎の金網張り替え工事のため、テナガザルを別の舎に入れ替えました。
- 11/3. 秋の動物園祭が、本日で終了しました。オオミズナグロを1羽保護しました。
- 11/5. キジバトとムナグロを各1羽保護しました。
- 11/6. 小鳥の家の暖房が稼動を始めました。
- 11/8. ゴリラ舎に暖房を入れました。

- 11/9. トラグミを1羽保護しました。ピューマの雌が雄より裂傷をうけたので、麻酔し治療しました。
- 11/10. 埼玉県立子供動物自然公園のかたが来園、見学されました。
- 11/14. オランウータンの雌のオランが、雄のブルに左足裏を咬まれ少し出血しました。
- 11/20. ローランドゴリラの雌ラリが右上腕にやや深い裂傷を負ったので治療を開始しました。

## この一年をふり返って

1月

昨年11月に入園したホッキョクグマの子供は、オスの方が一時、採食状態が悪く、年末までいろいろな手当や北海道から好物だというオオナゴなどを空輸させて与えたり苦労しましたが、やっと正月から順調に食べ出し、ホッとさせました。そして1月17日には、そろって運動場に放飼してやりました。しかし、昭和49年に上海から贈られてきたクロオオカミは、オスをちょうど1年前の正月に亡くしたところなのに、また、メスが同様な症状になって、必死の手当のかいもなく死亡しました。1月5日のことで、正月早々からまったくいやな思いで過しました。



6日には上海雑技団の大阪公演のパンダ=ウエイウエイが大阪に到着し、飼育などのサポートに動物園もお手伝いしました。そして、公演も順調で、休演の日には雑技団一行30名が動物園を見学されました。

マレーグマのメスが肺炎のため、治療のかいなく死亡しましたが、3年ほど前にメスの子供を産んで



育っていますので、ちょうどオス親と娘というカップルになりました。

ジャングルキャットに猫テンパーが発生し、治療や他のネコの仲間やアライグマ、ハナグマにも伝染しないように予防接種をしたり大わらわでした。

ダチョウのメスが仮柵に足をつつ込んで骨折してしまい、副木をあてたりして治療しましたが、体重の重い鳥ですから致命傷となりました。



また、ブラックバックやトラが産まれたり、エミューやキングペンギンの産卵がありました。

2月

初め、石川前助役がゾウの春子さん、ユリ子さんに会いに来られました。石川さんは戦後の大阪市民の食糧確保のためにタイ国に米の買付に行かれた帰りにゾウにつきそって帰られたということで、31年ぶりの御対面となりました。すっかり大きくなったゾウを前にして石川さんは、当時のことを思い出しておられました。

エミューのひなが電気ふ卵機でかえりはじめました。

水禽放養舎のシュバシコウの巣材入れを例年の通り行ない、繁殖に備えることにしました。

2月27日、この冬一番の冷え込みで、園内あちこちの水道管の破裂があり、中でも飼料倉庫の冷蔵庫の冷凍機もパンクして大きな被害を受けました。さいわい、動物の方はこの寒さにもかかわらず被害もなく元気でした。

3月

を迎えて、この春の繁殖期のためタンチョウ舎の土の入れ替えをしてやりました。昨年、ひなの1羽がアスペルギルスというカビのために死亡していますとコクシジウムという寄生虫病が発生しないようにということからです。

展示館の一隅で動物の生態などを入園者に見ていただくビデオ装置の寄付があり、生きた動物と共に

野生での生活をビデオで見ることができ、入園者に喜ばれるでしょう。

かねてより話のあったオセロットのオスが佐世保動物園より入園しました。園にはメスのみしかいませんでしたから繁殖が望めなかったので、3年契約でお借りしたものです。4月には同居もうまくいき、交尾も見ていますが、まだ妊娠の兆候はありません。しかし、来年こそはと期待しています。



した。

神戸王子動物園よりオオヤマネコのオスの寄附があり、小獣舎がにぎやかになりました。できるだけ早くメスを入れてやりたいと考えています。

昨年生まれのアシカの餌付けを開始しました。生

後約8カ月のものですが、活アジを使ったりで大変むづかしいものです。結局3頭のうち1頭成功して大きくなりました。

100%成功させるには餌付けの時



期、やり方など今後もいろいろ研究課題が多いものです。

4月

昨年未から工事が進められていたコウノトリ舎が竣工し、永い間ツル舎に間借りしていたコウノトリ夫婦を放してやりました。この際、いきなり広いところに放してやると金網につかって嘴が折れたり、翼や脚の骨折事故を起しやすいので、風切り羽根を切ってやりました。こうして注意しながら飼育してきたのですが、7月になってメスが急に食欲不振になり、死亡してしまいました。卵が腹腔に落ちてしまう病気でしたが、新居ができていよいよこれから繁殖が楽しみだというときで、飼育係一同ガックリしたものです。その後、幸い、神戸の王子動物園の御好意でメスを借り受けできましたので、また、繁殖の望みができました。

動物病院の改修が終り、先に新設されたのと合せて機能的に動きはじめました。

キジ類の卵の産卵も多くなってきましたので、今年の電気ふ卵機によるふ化を始めました。今年もベニジュケイのふ化に力を入れました。

アミメニシキヘビが、大阪港に入った木材運搬船の木材の間にまぎれて密入国?してきましたので動物園で保護しました。このヘビは、ワシントン条約にもリストアップされている動物ですから、発効後初めてのケースで、取扱いにはいろいろ関係方面に御面倒をかけました。

今年もタンチョウの産卵があり、2羽が無事ふ化しました。しかし、エサを拾いはじめてしばらくして、うち1羽が金網のちょっとしたすき間から隣のカムリヅルの方に入ってしまった、頭をつつかれて惜しくも死にました。幸い1羽はすくすく成長しました。今後は更に細かい配慮をしていかなければならないと思っています。後で成長したこのヒナの血液による性別判定をしましたところメスでした。

5月

春のゴールデンウィークを迎えてかなりの入園者があり、動物園まつりの目玉として、恒例の「ゾウの目方をあてましよう会」が行なわれました。ゾウの春子(31才)は4500kg、ひろ子(11才)は2330kgでした。また、バードウィークには「大阪の鳥」展が展示館で行なわれました。

鳥たちの産卵も本格的なシーズンで、ショウジョ

ウトキやジュンツーペンギン、シュバシコウなども産卵しています。

最近チンパンジーのシュジーは目もおとろえ、放飼場にも出せなくなっていましたので、彼女の余生をあたたくおくらせようと、チンパンジー舎の中で、部屋を一部手直しをしていましたが、完成したのでここに移して陽なたぼっこをしたり、気楽に生活できるようにしてやりました。衰えたりといえどまだまだ元気ですから飼育記録を伸ばしていくことでしょう。

国内の動物園でも繁殖過剰になっているライオンは、当園でも繁殖が多く、頭を悩ましていたがこのほどメスに黄体ホルモンを埋め込み、避妊を計ることになり処置を行ないました。

コブハクチョウがひさしぶりに4羽ふ化し、うち3羽がうまく育って池がにぎやかになりました。

サル山の金網が早朝に不法侵入者によって破られニホンザル6頭が脱出してしまいました。幸い園内の木の上にいたりして速くに行かなかったので、5頭は午前中に麻酔銃などで捕えました。一頭は天王寺公園にまで出て行き、2日後にアベノ橋の駅で無事捕えました。今年も動物や動物舎にいろいろなたづらがあつた中でも大きな事件でした。

例年通りメンヨウの毛刈りでスタートをきる。間借人?のクウノトリが新居に移ったあとのツル舎の1室に、多摩動物園よりいただいたハゴロモツル1番を展示しました。最初は場所なれしない

のでおびえて採食がおもわしくなかったのですが、その後すっかり慣れ、尾羽根も長くそろって貴婦人ぶりを見せています。



サルアパートにブラザモンキーを展示しました。

グエノンの仲間でも大変美しいサルで成獣になると頭の冠や、長いアゴヒゲが立派になることでしょう。

ニホンシカやニホンザル、アシカの出産シーズンに入りましたが、ニホンシカでは母親や他のメスに肛門をなめられて穴があいてしまうことが多く対策を迫られています。アシカは3頭が生まれ、2頭が成長しています。

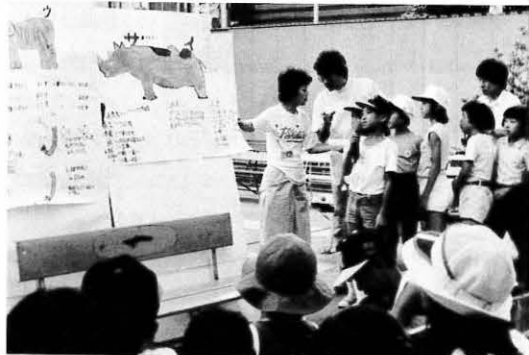
今年初めてマナヅルが産卵しましたが、破卵してしまいました。このツルは、6年前中国の上海動物園から贈られて来たもので、やっと産卵を見たものですが残念でした。来年に期待をしたいと思います。

カバやビューマの出産がありました。

ポートピア'81で人気のパンダを飼育中の天津動物園の方々の見学がありました。府の自然保護課や警察から保護依頼があつて、クマタカやアライグマが入園しました。

アカハシリキュウガモが放養舎で、また、ミドリカケスがことりの家でいずれも初めて自然ふ化しました。

今年もサマースクールがはじまり、3回にわけて



270名の子どもたちが動物の勉強をしました。年々盛況となり、園の係員も協力して下さるボランティアの方々も苦労は多いのですが、暑中がん張って無事終了しました。

メルボルン動物園よりワライカワセミ2羽が入園しました。2年前に2羽のワライカワセミを親善動物交換として同園より贈られてきていましたが、どうもメス同士のように、産卵はするのに無精卵ばかりだったのです。そこで、繁殖を図るために、オスを入手したいとかねてより要請していたものです。これで来年の繁殖も期待できそうです。

三重県の津市にオープンする動物園に、ヤギ、メンヨウ、ハト、モルモット、ウズラなどの動物たちを贈りました。津市の子供たちに喜んでいただけるといいですね。

大阪湾で保護されたコクチョウ1羽が入園し、南園の池に放してやりました。これで3羽が仲よく泳いでいます。

ブラックバックの誕生が続いて2頭あり、いずれも親が哺乳しています。

9月 クロサイのメスが急に食欲不振と削瘦が目立ちはじめ、心配をさせましたが、いろいろ治療を続けたところ、糞の中に多量の砂の排出があり、その後、食欲も増えて元気になり、飼育係一同ホッとさせました。

恒例のシカの角切りを行ないました。メスの負傷事故や、キーパーへの攻撃を予防するため、今年は、少し早めて行ないました。

アメリカのサンディエゴ動物園へタンチョウ1番を寄贈しました。

万国博が大阪で開催されたとき、いろいろな動物がやって来た中で、アメリカからもブレイリードッグが贈られてきていました。その後、サンディエゴ動物園からシンリンオオカミやコヨーテも贈られて来ています。

どんどんタンチョウも繁殖するようになり、かねてよりサンディエゴ動物園より切望されていたことでもあり、11月に開催される日米市長会議で大島市長がサンディエゴを訪問される機会に贈呈をすることになり、検疫期間も見て発送したものです。その後の連絡では検疫も無事に終り、盛大に贈呈式が行なわれたとのことで、アメリカの動物園でもどんどん繁殖してくれればと願っています。

10月 動物園の冬仕度の行事としてボイラーの火入れ式を行ない、夜間は爬虫類舎に暖房を入れはじめました。

神戸王子動物園から繁殖ローンで、クウノトリのメスを借受け、当園のオスと同居させました。来春にうまく繁殖すればと期待しています。

中国の上海市動物園からクロオオカミ1番が贈られてきました。また、クロオオカミにつきそって上海動物園の張副園長他2名の方々が来阪されました。

そして、園内見学や技術交流を行ないました。

31日には、大島市長の出席のもとに交換会を行ない、さっそく入園者に披露しました。オス、メスと

2才で平々、義々と名付けられていて、うまくいけば来春2月にも繁殖できると期待しています。

上海の団員の方々は京都、神戸、須摩の動物園や水族館も熱心に見学され、また、万博の日本庭園や大阪城見学など7日間の短い日程でしたが、有意義に過されて帰国されました。来年には、大阪からアシカやマントヒビを上海動物園にプレゼントする予定になっています。

11月 サル山のニホンザルたちの戸籍登録を改めてやり直そうということで、約20頭を捕獲し、胸に入れ墨のナンバーをつけました。同時にツベルクリン注射も実施しました。これからは個体識別がやりやすくなります。

来年はイヌ年にあたり、オオカミの仲間を収容している中獣舎に、ドール(アカオオカミ)を展示したいと願っています。ちょうど、国内の動物園では初めて繁殖に成功した横浜の野毛山動物園に子供のドールがいますので、なんとかブリーディングローンということで借り受けたいと願っています。うまく話が進めば、初春には大阪の市民の皆さんにも姿を見てもらえるものと期待しています。

その他、初春に恒例の「エトのおもちゃ展」を催す準備が進められています。来年はイヌ年で、内外の犬のおもちゃがたくさん出品され、人気を呼ぶことでしょう。また、今年、来園したクロオオカミの檻の前には早々とシメ飾りをつけてやりました。

(文責:樽本 勲)



ウ産飼をでの活まではこる3ニの頭寺事た移だ所いえおなでのり羽そ姉見す

# キーパーズ・アイ ⑱

## ① キングペンギンのジェラシー

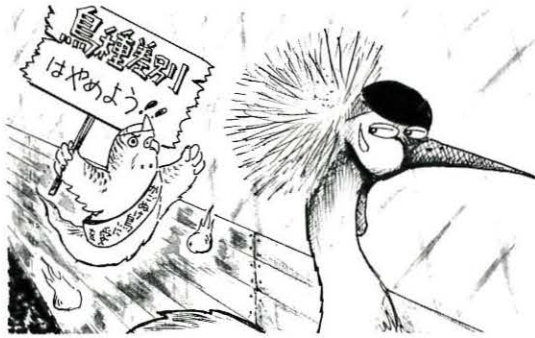
当園のペンギン村に人なれしすぎの手乗り?のキングペンギン1羽が入園、それ以来当ペンギン村は大騒ぎです。名前は「キンちゃん」と名付けました。名前を呼ぶとベタ、ベタと足を鳴らして寄ってきて、私の背中や足にベッタリとよりそい、口バシでチョンチョンとつついたり、長グツの上にもじ登ろうとしたり大変です。ところがそんな様子を見た前からいるキングペンギン(♀)の1羽が、激しく攻撃というのかジェラシーの表現というのか、私をつつきに来たり、キンちゃんを翼で叩いたり、もっとひどい時などは、まわりのペンギンにもヤツアタリしたりするほどです。私の足など青いアザ(内出血)の跡が3~4ヶ所出来ています。ジェラシーはイヤですねエー。



(飼育課：仲谷登)



## ② セキセイインコとカンムリヅル



ここ2ヶ月間にセキセイインコが3羽もツル舎に現われ、ツルのエサ(配合飼料)をスズメといっしょに食べるようになりました。始めは黄色のハルケインが来ていましたが、何度もスズメは入れ替り立ち替りするのにセキセイインコはいつも黄色い体をツボの中に入れてままでした。「よく食べるなあ」と思い見ていると、何と2羽のよく似たセキセイが入れかわりに来て、知らぬ間に交代しているのです。

その内もう1羽ナミセキセイが来るようになりました。その頃からカンムリヅルがセキセイインコが来た時だけエサツボの方に走ったり、羽をバタつかせたりして追いはらう様子を見せ始めました。内心ずっと来てくれたらいいなあ、と思っていた私にとっては、「イジワルなヤツメ!」とカンムリヅルを見なくなる時さえありました。そうこうしている内にスズメなら何もしないカンムリヅルが、どうして捕まえたのかエサツボの横にある水用のツボの中へセキセイインコを殺し入れていました。それ以来セキセイインコは1羽もエサを食べに来ません。スズメとセキセイインコとちゃんと区別しているのですから、何が気に入らなかったのでしょうか。羽色の問題なのか、行動のちがいのなか、よく分かりません。それにしてもカワイソウなできごとでした。

(飼育課：仲谷登)

(イラスト：松山浩美)

# 動物園ニュース

## §ニホンザルの個体識別

南園、猿島のニホンザルの個体識別するため、11月16日に入れ墨を実験しました。午後1時から作業に入り、約2時間で20頭すべてを捕獲し、個体識別のため胸部に入れ墨を入れました。さらに結核の診断のためにツベルクリン検査も実施しました。



今後、個体識別を確実にしないニホンザルの行動調査も実施したいと考えています。

## §マレーグマ舎のとまり木取り替え。

11月17日、木登り好きのマレーグマのために古くなって低くなってしまったとまり木を新しいものに取り替えました。マレーグマは他のク



していますが、11月24日に本年5月26日に孵化したタンチョウのヒナと、8月11日に来園した2羽のワライカワセミの採血を行ないました。

昨年までの当園生まれのタンチョウは雄2羽、雌4羽ですので、はやく適当な繁殖ペアを作りたいと思っています。

一方、ワライカワセミは、一昨年来園した2羽が染色体検査の結果両方と



タンチョウのヒナの採血

も雌であったことが判明したため、本年8月にさらに2羽を購入したわけですが、繁殖ペアを作るうえで性別を確認する必要があるため今回染色体検査を実施しました。

## §カメの冬眠

寒さの厳しくなった11月23日、アカミミガメやイシガメなど8匹のカメを冬眠させることにしました。

くらしを彩るショッピング

**近鉄百貨店**

アベノ店 (06) 624-1111・上本町店 (06) 779-1231  
東京近鉄 (0422) 21-3331

・近鉄百貨店グループ  
大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜  
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

ウ産飼をでの活まではこる3ニの頭寺事た移だ所いえたなでのり羽そ届見す

# キーパーズ・アイ ⑬

## ① キングペンギンのジェラシー

当園のペンギン村に人なれしすぎの手乗り?のキングペンギン1羽が入園、それ以来当ペンギン村は大騒ぎです。名前は「キンちゃん」と名付けました。名前を呼ぶとベタ、ベタと足を鳴らして寄ってきて、私の背中や足にベッタリとよりそい、口バシでチョンチョンとつついたり、長グツの上にもじ登ろうとしたり大変です。ところがそんな様子を見た前からいるキングペンギン(♀)の1羽が、激しく攻撃というのかジェラシーの表現というのか、私をつつきに来たり、キンちゃんを翼で叩いたり、もっとひどい時などは、まわりのペンギンにもヤツアタリしたりするほどです。私の足など青いアザ(内出血)の跡が3~4ヶ所出ています。ジェラシーはイヤですねエー。

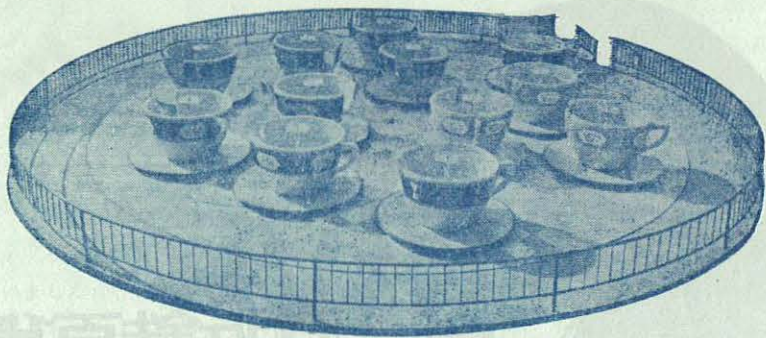


(飼育課: 仲谷 登)



## ② セキセイインコとカンムリヅル

### 遊園施設委託経営・製作・販売



### 久竹 娯楽 株式会社

本社 工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号  
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

# 動物園ニュース

## §ニホンザルの個体識別

南園、猿島のニホンザルの個体識別するため、11月16日に入れ墨を実験しました。午後1時から作業に入り、約2時間で20頭すべてを捕獲し、個体識別のため胸部に入れ墨を入れました。さらに結核の診断のためにツベルクリン検査も実施しました。



今後、個体識別を確実にしないニホンザルの行動調査も実施したいと考えています。

## §マレーグマ舎のとまり木取り替え。

11月17日、木登り好きのマレーグマのために古くなって低くなってしまったとまり木を新しいものに取り替えました。マレーグマは他のクマと異なり木に登るのがたいへん好きなので、とまり木の傷みが激しくたびたび取り替えなければなりません。新しくなったとまり木に、マレーグマはさかんに登っています。



登っています。

## §ヤブツカツクリ舎に落ち葉搬入

ヤブツカツクリ(ヤブシチメンチョク)は腐葉土で大きな塚を作り、その中に卵を産み腐葉土から発生する熱によって孵化させるという変わった習性で有名ですが、一昨年メルボルン動物園から来園した番は、来園当初から多数産卵し、人工孵化を試み、今年は3個の有精卵も得られたのですが、孵化には至りませんでした。そこで来年の繁殖期にそなえ、自然繁殖をめざして11月20日に多量の落ち葉を入れました。来年こそはぜひ繁殖を成功させたいものです。

## §鳥類の性別検査

当園では外観では性別の判定ができない鳥類の性別を調べるために血液培養による染色体検査を実施

していますが、11月24日に本年5月26日に孵化したタンチョウのヒナと、8月11日に来園した2羽のワライカワセミの採血を行ないました。

昨年までの当園生まれのタンチョウは雄2羽、雌4羽ですので、はやく適当な繁殖ペアを作りたいと思っています。

一方、

ワライカワセミは、一昨年来園した2羽が染色体検査の結果



タンチョウのヒナの採血

両方とも雌であったことが判明したため、本年8月にさらに2羽を購入したわけですが、繁殖ペアを作るうえで性別を確認する必要があるため今回染色体検査を実施しました。

## §カメの冬眠

寒さの厳しくなった11月23日、アカミミガメやイシガメなど8匹のカメを冬眠させることにしました。冬眠に先立ち、それぞれ個体識別をし体重を測定しました。来春冬眠からさめた時には冬眠中の体重の変化はどうなっているのでしょうか。

## ◎ お知らせ

毎年恒例のえとにちなむおもちゃ展が、昭和57年度も北園展示館において行なわれます。期間は1月2日から31日までです。寝屋川市在住の吉田平七郎先生提供による世界23ヶ国のおもちゃを展示します。

## ※ 休園日のお知らせ ※

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。来年3月までの休園日は、下記のとおりです。

12月21日(月)、年末年始は12月29日~1月1日、1月18日(月)、2月15日(月)、3月15日(月)。

開園時間は、9時30分から5時までで、4時に切符売止めになります。

現在の飼育動物数 (1981年10月31日現在)

哺乳類	101種	360点
鳥類	224種	808点
爬虫類	46種	102点
計	371種	1270点

なきごえ 昭和56年12月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

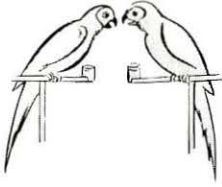
第17巻 第12号(通巻196号)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06)771-0201

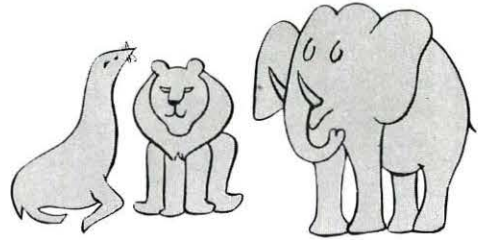
横替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

## 有限会社 吉川 商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の  
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



# 雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイナップル・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

橋本 一郎・上井 良彦・榎本 勲・中川 哲男・宮下 実・長瀬健二郎・神原 安昭・森本 幸利・大野 尊臣  
渡谷 文彦・農本 武志・野口 秀高・仲谷 豊・高橋 真三・板野 健一・石島 宏胤・柴田 純